

三省堂



準備号
2

小学校英語マガジン

特集

アクティブ・ラーニングを取り入れた学びとは？



三省堂

アクティブ・ラーニングの Why, What, Howに答える！

次期学習指導要領では、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れることが求められています。どうしてアクティブ・ラーニングが必要なのか。そもそもアクティブ・ラーニングとは何なのか。どのようにアクティブ・ラーニングの視点を授業に取り入れたらいいのか。3つの疑問に答えていきたいと思います。



Why

グローバル化や急速な情報化、
技術革新による
社会のめまぐるしい変化

予測困難な時代の到来

自ら解決策を生み出していく
力の育成が必要



どうしたらいいの～？



アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた学び！



What

アクティブ・ラーニングとは

「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。」（文部科学省「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて（答申）用語集より」）

「主体的・対話的で深い学び」の実現

次期指導要領においてひとつのキーワードともいえる「アクティブ・ラーニング」。文部科学省は、「アクティブ・ラーニング」そのものの実施ではなく「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善、すなわち「主体的・対話的で深い学び」の実現による授業改善を求めています。

主体的な学び

学ぶ意味と自分の人生や社会の在り方を
主体的に結びつける



対話的な学び

多様な人との対話や先人の考え方（書物
等）で考えを広げる



深い学び

学習対象と深くかわり、問題を発見・
解決したり、自己の考えを形成し表したり、
思いを基に構想・創造したりする





How

外国語活動や外国語科での「主体的・対話的で深い学び」は、「目的」「見通し」「活動」「振り返り」のサイクルを意識することで実現できます。講義形式で一方向的に知識を与えるのではなく、子ども自身に「何を目標に学び、そのために何をしたらよいか」といったことを考えさせ、学習内容に能動的にかかわらせることが大切です。

自己紹介をしよう！

Hello!
My name is James.
I'm from England.
I like football.
Nice to meet you!

目的を持とう！
ゴールを考える。

ジェームズ先生に
ぼくもスポーツが
好きってことを
知ってもらいたい！
一緒にスポーツできたら
いいなあ。

見通しを持とう！
ゴール(目的)の達成に何が必要か考える。

好きなものを
言うのは、I like。
でも野球の言い方が
わからないぞ！
調べてみようっと！

やってみよう！
実際に活動をしてみる。

My name is Taro.
I like baseball!
Nice to meet you!

ちゃんとできたかな？
ゴール(目的)が達成できたか振り返ってみる。

Hello! Taro.
I like baseball too.
Let's play baseball!

やった！
通じた！

次は、先生に、
好きな食べものを
聞いてみるぞ！

次の目標へ！！GO！！

アクティブ・ラーニング 小学校でできること

回答者:松宮奈賀子先生(広島大学)



小学校外国語活動に関する研究がご専門の松宮奈賀子先生に、アクティブ・ラーニングとはどのようなもので、その視点を、外国語活動や新しく導入される外国語科の授業ではどのように取り入れられるか、うかがいました。

変化の激しい今日、そして未来の社会を生きる子どもたちにとっては、ただ単に「知っている」「解き方が分かっている問題を正解できる」だけでなく、自ら問いを立て、その答えのない問いに時に他者と協力しながら取り組む力が必要になります。そのためには、何を学ぶかに加えて「どのように学ぶか」の経験が重要で、アクティブ・ラーニングはそのための学習・指導の方法です。

アクティブ・ラーニングという新しい用語が入ってきて、不安を感じられる先生もおられるかもしれません。しかし、知識の伝授に終わるのではなく、児童自らが考え、協力しながら何かを調べたり、達成したりするような取り組みは、これまでも諸教科や総合的な学習の時間の中で実践されてこられたものと思います。そのような学び方を全教科を通して、より一層進めていくことを目指して、今、アクティブ・ラーニングという名称をもって再度強調されるに至っているのです。したがって、アクティブ・ラーニングを突然降って湧いた新しいものと恐れる必要はなく、「児童が主体的に、他者と協力しながら課題の解決に挑戦できる力や意欲を育てる」ための学習・指導を考えることが、アクティブ・ラー

ニングにつながるのです。逆に、アクティブ・ラーニングの表面的なイメージで、ペアやグループで活動をさせていればアクティブだといった、形式だけの誤解に陥らないことが大切です。例えば、丸暗記の英語表現を使ってペアで練習をする場面や、リスニングのためにグループでカルタとりをする場面は、アクティブに見えても思考や探究を要さない点でアクティブ・ラーニングとは呼べないでしょう。

これまでの外国語活動でも、英語で話されることの大事な部分を児童が要点だけでも理解しようとする場面はあったと思います。それを「なんとなくのリスニング」で終わらせるのではなく、例えばグループの各メンバーが異なる先生の情報をリスニングし、わかった内容をもとに「野球が好きな先生」や「きょうだいが一番多い先生」といった情報を班内で協議しながら見つけ出すようなジグソー型の学習にすることもできるでしょう。

まずはひとつの単元で思考や協働を伴う活動を取り入れてみて、そこでの手ごたえや反省をもとに、徐々に他の内容でもアクティブ・ラーニングを展開していけるとよいと思います。

ことばの学びをお手伝い

教科書出版部長

富岡次男

小学校の英語の授業を拝見して驚くのは、小学生がことばを学ぶ力はすばらしいということです。とかく、おとなは英語を「教える」というスタンスをとりがちですが、実はことばへの触れ方、出会い方次第で、子どもたちは自ら「気づき」、自分で「学ぶ」ことも多いと感じます。したがって、与える教材は子どもたちのことばの学びに大きく影響してきます。編集者としては、その怖さに身がすくむ思いですが、逆に、それらのお手伝いができるおもしろさ、意義深さもあると前向きに考えつつ、よきことばの使い手を育てる英語教育とは何かを、先生がたとともに考えていきたいと思えます。

三省堂小学校英語マガジン 準備号 2

2017年1月27日 発行

編集・発行人:北口克彦

発行所:株式会社 三省堂

〒101-8371 東京都千代田区三崎町2-22-14

電話 03-3230-9411(編集)・9412(営業)

振替 東京00160-5-54300 <http://www.sanseido-publ.co.jp>

印刷:三省堂印刷株式会社

〒192-0032

東京都八王子市石川町2951-9 電話 042-645-6111(代)

■大阪支社

〒530-0002 大阪市北区曾根崎新地2-5-3/06-6341-2177

■名古屋支社

〒460-0008 名古屋市中区丸の内3-21-31 協和丸の内ビル2F/052-953-9211

■九州支社

〒810-0012 福岡市中央区白金1-3-1/092-531-1531・1532

■札幌営業所

〒060-0042 札幌市中央区大通西15-2-1 ラスコム15ビル3F/011-616-8722